

「武蔵塗料グループ 中国重慶とベトナムハノイに新工場を設立」

2020年9月8日

*概要

当社は、中長期にわたるグローバル事業の成長を実現するため、重点市場における事業リスクへの対応と成長市場での展開強化を軸とする施策を実施する。

①重点市場である中国における施策／重慶での事業開始

当社の重点市場である中国は、あらゆる事業に対する環境規制が強化されており、当社を含めた塗料業界もこの影響を免れることが出来ず、規制への対応が喫緊の課題となっている。

当社は、安全な立地での事業展開による操業停止リスクの回避と環境配慮型製品の強化を主な施策とする。また、重慶は中国有数の産業集積地であり、自動車や IT を含む多様な客先が事業を展開しており、新規顧客の開拓も同時に行っていく（重慶詳細は、添付ご参照）

②成長市場ベトナムにおける施策／ハノイでの事業開始

成長市場である東南アジアでもベトナム、特にハノイには海外の多数のメーカーが生産拠点を構えているが、最近の中国からの生産拠点移管の流れも加速しており、当社は既存のホーチミン工場に加えて、新たにハノイでの生産を開始する。新工場では、この旺盛な需要の取り込みに加えて、中国同様、環境配慮型製品の強化を図り、同地域での環境保護に貢献するとともに同社のブランド力の強化を図る（ハノイ詳細は、添付ご参照）

武蔵塗料グループ：

1958年の創業からスタートし、現在では世界10カ国、14拠点をネットワークし、グローバルで同一品質の塗料を開発、生産が可能な体制を実現。プラスチック塗料に特化し、自動車、携帯電話、家電、パソコンなど幅広いニーズに対してさまざまな特徴を持った製品を提供。

拠点：日本、韓国、中国、ベトナム、タイ、マレーシア、インドネシア、インド、ハンガリー、米国

以上

「武蔵塗料グループ 中国重慶市に新工場を設立」

2020年9月8日

*概要

武蔵塗料グループ（以下当社グループ）は7月31日、中国重慶市にある重慶阿麗斯科関西塗料有限公司の株式を100%取得し、重慶武蔵塗料有限公司と名称を変更して、新工場を設立したことを発表した。2021年1月の操業開始予定。

当社グループが中国に新たな生産拠点を設けるのは16年ぶり。敷地面積は約6万平方メートルで、生産能力は年間1万トンを確認、当社グループが世界で展開する全11生産拠点中、最大規模の工場となる。



*新工場設立の目的

今回の新拠点設立には大きく3つの目的がある。

まず、中国全体における安定供給体制の確保である。近年、中国はあらゆる産業において環境規制が厳しさを増しており、当社グループの既存工場も大気汚染抑制の観点から生産停止命令を受け、安定供給を継続する面でのリスクが増大してきた。今回の新工場は国家級の化学工業園区に位置しており、大気汚染により既存工場が生産停止になった際のバックアップ拠点として機能することが可能となる。

また、新工場は環境規制対応だけでなく、省人化・自動化による生産性の向上をベースに、既存工場が現在個別に生産している水系塗料を含む樹脂用塗料の半製品を一括して生産し、各工場に供給する。



次の目的は、中国製造業の一大生産拠点である重慶市の立地を生かし、同地に事業を展開する顧客への迅速な対応を図ることである。中国西南地域に位置する重慶市に当社は今まで事業拠点がなく、既存工場のある天津や中山から対応せざるを得なかったが、新工場設立後はこの課題を解決出来ることになる。

当社グループの主要顧客である自動車業界において、重慶市は中国における最重点地域の一つである。2019年の同市の自動車生産台数は約138万台で、地域別生産シェア9.8%に達している。同市には従来から軍需産業や二輪車産業の基盤が存在したことで、長安汽車、長安フォード、北京現代などの有力自動車関連企業が事業を展開している。また、近隣の四川省には一汽トヨタをはじめフォルクスワーゲンやプジョー・シトロエンなどの外資系自動車メーカーが進出、自動車産業が急成長している。同市はこれら自動車メーカーのみならず、2019年に世界のノートパソコンの約40%を生産し、6年連続で世界首位となった。携帯電話の生産額も初めて1000億元（約1兆5000億円）を超え、生産台数は世界の約1割を占めた。通信キャリアやブランド企業、OEM企業、関連会社などを一体化したスマート端末産業チェーンが形成されている。また、プリンターメーカーも進出しており、幅広い分野の顧客の要望に迅速に対応すべく、生産・供給体制を整備する。

3つ目の目的は製品力の強化である。今後、中国市場では水系塗料を中心とした環境配慮型製品の拡充がますます求められる。この要請に応えるため、当社グループは水系塗料をはじめ各種VOC低減塗料の開発を一層強化し、性能と陣容の強化を図る。新工場は、これら環境配慮型製品の生産の拡大に貢献するための中心拠点としての役割も担う。

武蔵塗料グループ：

1958年の創業からスタートし、現在では世界10カ国、14拠点をネットワークし、グローバルで同一品質の塗料を開発、生産が可能な体制を実現。プラスチック塗料に特化し、自動車、携帯電話、家電、パソコンなど幅広いニーズに対してさまざまな特徴を持った製品を提供。

拠点：日本、韓国、中国、ベトナム、タイ、マレーシア、インドネシア、インド、ハンガリー、米国

以上

「武蔵塗料グループ

ベトナム北部のハノイ地区（バクニン省）に第 2 工場を設立」

2020 年 9 月 8 日

*概要

武蔵塗料グループ（以下当社グループ）は、ベトナムバクニン省の QueVo2 工業団地内にベトナム武蔵のハノイ支店として、新工場を設立することを発表した。2021 年 1 月の操業開始予定。2011 年設立のベトナムホーチミン地区のドンナイ省の工場に続く、ベトナム国内での新たな生産拠点となる。敷地面積は約 15,000 平方メートルで、生産量は最大で年間 1700 トンを見込み、ASEAN エリアで同一国内に 2 つの工場を持つのはベトナムが初めてとなる。



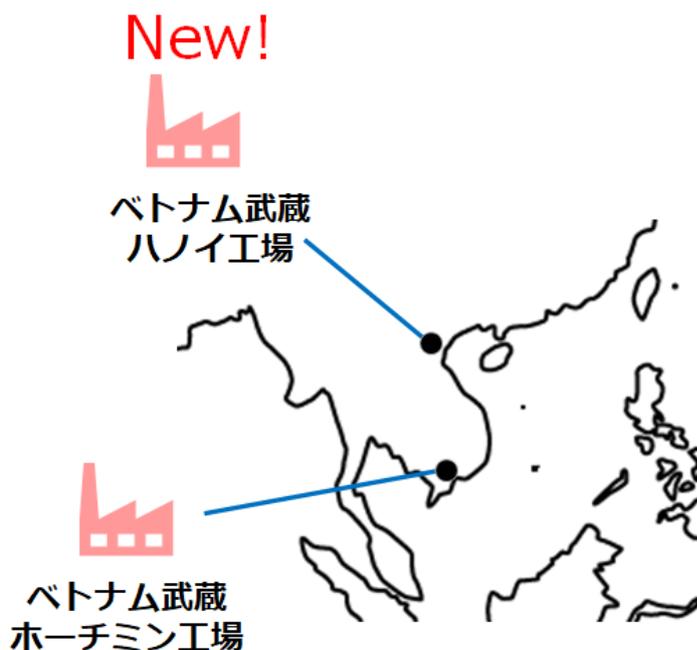
※工場完成イメージ

*新工場設立の目的

今回の新拠点設立には大きく 3 つの目的がある。

まず、チャイナプラスワンへの対応である。

ベトナム北部は中国と隣接しており、近年中国からの案件移管なども増加傾向にある。中国の環境規制強化など厳しい状況が続いており、各顧客の近隣諸国への進出や生産移管なども増加傾向にあり、ベトナム北部で案件受入可能な体制を整えていく。



次の目的は、ベトナム国内におけるサービス体制の強化のためである。

2011年よりベトナム南部のホーチミン地区のドンナイ省でオペレーションを開始し、直近5年間で生産数量は2.5倍になった。また、近年北部エリアからの受注も増えたことにより、生産体制の強化と顧客の近くでサポートを出来る環境が必要となっている。

3つ目の目的は、非日系案件獲得の為である。

現在ベトナムでは日系顧客比率が約90%となっているが、日系企業限定のビジネスでは大きな成長が望めない。非日系顧客比率を増やす為に、ベトナム最大手のビングループや韓国系企業であるSAMSUNG電子やLG電子などの大型案件獲得を目指している。

ベトナム北部のYEN PHON工業団地にはSAMSUNG関連のサプライヤーが集約されており、同じく北部のHAI PHONG市においてもLGグループが2,200億円以上の投資を行い、スマートフォンの生産を増強している。当社新工場はこれらの工業団地へもアクセスが良く、韓国系企業対応の為、当社韓国法人からの出向者を常駐させ、新たな顧客を増やす為の挑戦をしていく。

武蔵塗料グループ：

1958年の創業からスタートし、現在では世界10カ国、14拠点をネットワークし、グローバルで同一品質の塗料を開発、生産が可能な体制を実現。プラスチック塗料に特化し、自動車、携帯電話、家電、パソコンなど幅広いニーズに対してさまざまな特徴を持った製品を提供。

拠点：日本、韓国、中国、ベトナム、タイ、マレーシア、インドネシア、インド、ハンガリー、米国

以上